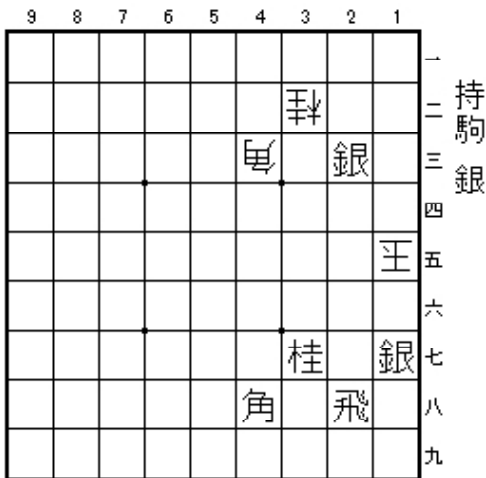


## 詰将棋解答選手権2023一般戦解題

### ① 藤原勝博作



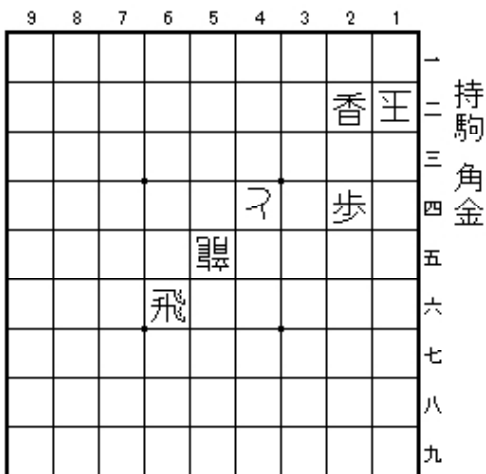
24銀、同桂、25飛、同角、45桂まで5手詰

初手45桂ハネは時期尚早。26歩と捨て合いされ、同角でも同銀でも24玉から逃げられてしまいます。

まず24銀、同桂と退路をひとつ塞ぎますが、ここでも45桂はまだ早く、26歩、同銀、16玉でダメ。17銀を動かすと失敗します。

3手目、飛車捨ての英断により25も埋めておくのが正解です。

### ② 富樫昌利作



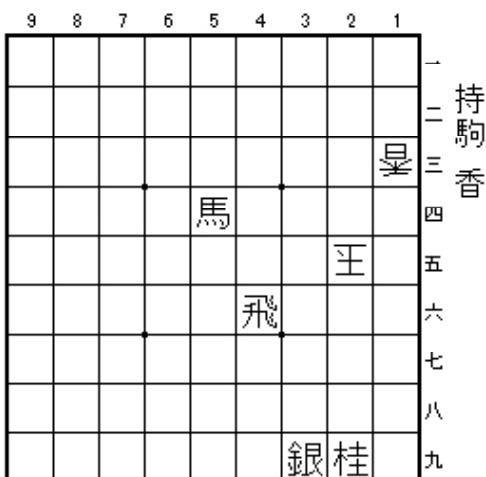
45角、34角、23金、11玉、16飛、同角、12金まで7手詰

すぐに23金、11玉と形を決めてしまうと、天王山の龍が縦にも横にも利いていて66飛が使えません。

そこで45角と守備駒の焦点に打つのが習いある手。同となら23金、11玉と追って16飛まで。同龍なら同様に61飛成まで……すると前問とおなじ5手詰？

いいえ、45角にたいし34角と中<sup>ちゆうあ</sup>合いする妙防が本作の眼目です。同角、同とと進めると角の打ち場所を失うゆえ。しかし龍の横利きが止まっているので5手目に16飛と捨てて金が進み7手詰となりました。

### ③ 北村憲一作



28香、27桂、同香、15玉、45飛、16玉、28桂、27玉、25飛まで9手詰

実戦形の中段玉です。まずは上に逃がさぬよう28香と据えますよね。

すぐに15玉なら16飛、同玉、43馬。このとき香の位置が27であれば取って逃走できるので、もどって2手目には27桂合と捨てておきます。(歩合だと同香、15玉、16歩、14玉、32馬で早い)

同香、15玉に、こんどは45飛と上がります。脱出予定の27地点が俎上と変じ、華の両王手にて終了。

④ 大野雄一作

9	8	7	6	5	4	3	2	1
					馬			一
						王		二
					馬	王		三
							角	四
					香			五
								六
								七
								八
								九

持駒  
飛香香

14銀、同玉、15飛、24玉、27香、26金、35馬、15玉、16香、同金、25馬まで11手詰

34玉からの逃げが見えるので、初手13飛は打てません。まずは14銀と突き出し同玉(24玉なら22飛、14玉、15香、同玉、26飛成、14玉、15香で早い)、15飛、24玉と形を決めてから27香と打ち下ろします。

これには26金の中合いが最強の受け。攻方はあせらず35馬、15玉と追い、16香が決め手となります。

本作は清涼詰となる収束が早いほか、すっぽ抜け感あるフツツとした序奏も妙味を醸しています。

⑤ 武 紀之作

9	8	7	6	5	4	3	2	1
					馬			一
					王			二
					香	王		三
						香		四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒  
金金金金銀

13金、同飛、22金、同玉、31銀、同馬、23金、同飛、31馬、12玉、21角、同飛、13金まで13手詰

攻方41馬が14に利いているので、まず13金と放り込みます。同玉なら頭から押して簡単。

ゆえに同飛と応じますが、続けて金銀を捨てて馬を質駒にします。これをすぐにとって詰むのでは詰将棋として味悪というもの。

壁にするため飛車をまた動かしてから質駒を入手し、これも三たび飛車を動かすために捨てます。

軽快な手順の守備駒翻弄物。手筋に明るい方ならむずかしくはなかったでしょう。

⑥ 山路大輔作

9	8	7	6	5	4	3	2	1
					王	王		一
								二
					香			三
					馬			四
								五
								六
								七
								八
								九

持駒  
飛角銀

33飛、32銀、21桂成、同玉、12角、31玉、22銀、同玉、32飛成(不成も可)、同玉、33銀、31玉、21角成、同玉、22銀成まで15手詰

コンパクトな盤面七色図式です。42玉からのルートが見えており、22角では逃げられます。

初手は33飛の限定打。42玉には43銀や53飛成の用意があります。32歩合などは21桂成、同玉、23飛成以下簡単、32金合も22銀、同玉、32飛成以下早く詰むので、2手目は銀合が最善の抵抗です。

そのあと21桂成、同玉、12角打が好手順。たいして同香は23飛成以下、同玉は13銀以下どちらも早く

詰むため、31玉と逃げるのが正しい。つづいて22銀、同玉、32飛成が力強く、最後は21角成捨てがきれいな決め手となりました。ラスボスらしい手応えだったと思います。

**【追記】**

4月9日この解説文をアップしたところ、Twitter上で③の最終手につき余詰のご指摘をいただきました。

ふつう最終手での余詰は不問とされますが、43飛成とすると駒余りとなるのは印象が良くありませんね。気にするなら出題図の39銀を玉方38歩とする改作案が考えられます。

なお、本問の正解者は2名増となったので集計結果を訂正しました。ご了承ください。